

100年の歩み

キューピー株式会社は、2019年、創業100周年を迎えました。

「良い商品は良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわり、食品を扱う者の心構えとして「正直」「誠実」を愚直に守り続け、1919年の創業以来、いつの時代にもこの想いを大切に商品づくりに努めてきました。

これからの100年も、創業の想いを受け継ぎ、さらに新しい挑戦を続けていきます。

創業期

- 1919 食品工業株式会社(現・キューピー株式会社)創業
- 1925 日本初のマヨネーズ「キューピー マヨネーズ」発売
マヨネーズにキューピーの商標を使用
- 1932 「アヲハタ ママレード」発売
株式会社旗道園(現・アヲハタ株式会社)設立
- 1943 原料の入手が困難となり、マヨネーズの製造を休止

戦後復興期

- 1945 空襲により本社・工場(東京都中野区)が焼失
- 1948 マヨネーズの製造を西府農場(東京都府中市)にて再開
- 1956 ポリエチレン袋入りの「キューピー マヨネーズ」発売
- 1957 社名を食品工業株式会社からキューピー株式会社に変更

成長期

- 1958 ポリボトル容器入りの「キューピー マヨネーズ」発売
赤い網目模様の「キューピー マヨネーズ」の登場
- 日本初のドレッシング
「キューピー フレンチドレッシング(赤)」発売
- 1961 本格的に工場見学開始(現・オープンキッチン)
- 1962 「キューピー3分クッキング」の放送開始
- 1966 キューピー倉庫株式会社
(現・株式会社キューソー流通システム)設立

食品工業株式会社(現・キューピー株式会社)創業

1919年、キューピーの前身である食品工業株式会社は、食品の製造会社として、現在の東京都中野区に創業し、ソース類、缶詰などの製造を始めました。

中島董一郎は創業時、取締役の一人として名を連ねます。その後、「キューピー マヨネーズ」の製造を開始するとともに、その後の企業成長において中心的な役割を担いました。

また、中島董一郎は、中島商店(現・株式会社中島董商店)を1918年に創業し、同商店が1972年までキューピーで製造した商品の販売を担いました。

日本で初めてマヨネーズを製造・販売

中島董一郎は1910年代、当時の農商務省による海外実業練習生として英国と米国に約3年間滞在。そこで「オレンジママレード」と「マヨネーズ」に出会いました。

1923年に関東大震災が発生。その復興の中で女学生の装いが洋風化するなど生活様式が変化する様子を見た中島董一郎は、食卓にも変化が訪れると感じ、マヨネーズの製造に向けて動き出します。

1925年、「おいしく、栄養のあるマヨネーズを、生活必需品となるまで広く普及させて、日本人の体格と健康の向上に貢献したい」という想いで、卵黄タイプで栄養価の高い「キューピー マヨネーズ」を発売しました。ブランド名には当時、人気だったキャラクターの「キューピー」を採用しました。

発売当時、日本ではほとんど知られていなかったマヨネーズ。「キューピー マヨネーズ」を広めるため、食卓にさりげなく「キューピー マヨネーズ」が描かれている美しい絵画を広告に使うなど、創意工夫を凝らしました。



創始者 中島董一郎



発売初期の「キューピー マヨネーズ」

「アヲハタ ママレード」発売 株式会社旗道園(現・アヲハタ株式会社)設立

発売当初は食品工業で製造しましたが、中島商店の出資で設立された株式会社旗道園でも製造を開始し、その後、旗道園がジャムやフルーツ缶詰などの製造の中心になりました。



「アヲハタ ママレード」

現在の商品へのつながり

キューピーグループでは、「アヲハタ ママレード」で培った素材の加工技術、缶詰の技術などを応用し、ジャムやパスタソースをはじめ、ベビーフードや介護食などの商品を、家庭用から業務用まで展開。赤ちゃんからお年寄りまで、それぞれの世代の食に貢献しています。

「キューピー マヨネーズ」の製造再開

1941年に太平洋戦争が始まり、マヨネーズの原料が手に入らなくなり、1943年頃、食品工業はやむなく製造を休止しました。戦後も物資不足は続き、マヨネーズを製造するには闇市の原料を使うしかありませんでした。しかし、それは自身の信念に反すると考えた中島董一郎は、闇市での原料調達をかたくなに拒みませんでした。そのため、ようやく製造を再開したのは、安定した品質の原料が流通し始めた1948年でした。

ポリボトル容器入りマヨネーズ発売

1958年、瓶容器・ポリエチレン袋入りに加え、さらに使いやすい自立式ポリボトル容器入りの「キューピー マヨネーズ」を発売します。



ポリボトル容器入り
「キューピー マヨネーズ」

マヨネーズの製造工程の合理化の度に行った値下げと、ポリボトル容器の発売は、マヨネーズ市場の急成長の後押しとなりました。中島董一郎が発売の時から抱いていた「マヨネーズを生活必需品にしたい」という想いの実現につながっていきます。

その後、急激な需要の伸びに対応するため、工場の建設、設備の増強を進めていきます。

日本で初めてドレッシングを製造・販売

「キューピー マヨネーズ」の需要が急増する中、マヨネーズ以外の商品開発にも挑戦し、1958年には日本で初めてドレッシングを製造・販売します。「キューピー フレンチドレッシング(赤)」から始まったキューピーのドレッシングは、その後、時代のニーズに合わせて、多様に広がっていきます。



「キューピー フレンチドレッシング(赤)」

キューピー倉庫株式会社 (現・株式会社キューソー流通システム)設立

「キューピー マヨネーズ」の出荷量が急激に伸び、工場での原材料・資材の入庫、商品の出庫の業務が多忙を極めていた頃、キューピー倉庫株式会社を設立しました。

生産(キューピー)や販売(中島董商店)と倉庫業務を分社化することで効率化をめざした設立でした。

当初の主な業務は、仙川工場製マヨネーズと中島董商店の扱い商品の保管・出荷業務。その後まもなく、商品の配送・受注業務も行うようになり、グループ内外の物流を担っていきます。



1975年頃のキューピー倉庫株式会社仙川営業所

事業領域拡大へ

- 1969 ● 三英食品販売株式会社と業務用市場へ
- 1975 ● キューピー・アラハタグループ海外事業部設置
 - デリア食品株式会社設立
- 1977 ● キューピータマゴ株式会社設立
- 1982 ● ファインケミカル分野へ進出
 - Q&B FOODS, INC (米国カリフォルニア州) 設立
- 1987 ● タイ国サハグループとThai Q.P. Co., Ltd. 設立 (2009年KEWPIE (THAILAND) CO., LTD.へ移管)

挑戦は続く

- 1993 ● 北京丘比食品有限公司を設立
- 1999 ● 株式会社サラダクラブ設立
- 2013 ● グループ研究開発・オフィス複合施設「仙川キューポート」(東京都調布市) 開設
- 2015 ● 人材育成を推進するグループ研修センター「みらいたまご」(東京都府中市) 開設
- 2016 ● 本社ビルを建て替えて、「渋谷オフィス」(東京都渋谷区)とし、本社機能・営業部門を置く拠点とした
- 2017 ● 食を通じて社会に貢献する「キューピーみらいたまご財団」設立
- 2019 ● キューピー株式会社創業100周年

そして 新しい挑戦の日々へ

三英食品販売株式会社と業務用市場へ

1969年、中島董商店は三英食品販売にキューピーの業務用商品の販売を委託しました。外食や学校給食の市場が拡大する中、より安全・安心な商品を供給していきたいという想いから、三英食品販売を通して、業務用商品の本格的な販売に着手しました。その後、外食の市場は大きく広がるとともに、お客様のニーズも多様化・高度化していきますが、三英食品販売は、それらのニーズに直接対応することで、今日の業務用営業の礎をつくりました。その後、キューピーグループの営業体制の再構築に合わせ、1990年、キューピーと合社しました。

キューピー・アラハタグループ海外事業部を 設置

1975年、中島董商店を中心にして、キューピー・アラハタグループ海外事業部を設置しました。その後、日本で培った技術を活かし、その国々の食文化に合わせた工夫をすることで、海外展開が広がっていきました。

キューピータマゴ株式会社を設立

「キューピー マヨネーズ」の製造開始以来、副産物である卵白の活用に取り組んできました。やがて、卵白にとどまらず、卵黄、全卵についても、卵を割って冷蔵・冷凍した液卵・凍結卵などのタマゴ素材品に加工し、販売するようになりました。これらの業務をさらに専門化し、お客様の様々なニーズに応えることをめざして、1977年、キューピータマゴ株式会社を設立しました。

2018年12月、これまでタマゴ事業を牽引してきたキューピータマゴ株式会社と株式会社カナエフーズを合併し、新たなキューピータマゴ株式会社としてスタートしました。



ファインケミカル分野へ進出

マヨネーズの主原料のひとつである卵には、生命誕生に必要な成分の多くが含まれています。これに着目し、卵から有用成分を取り出し活用するために発足したのが、ファインケミカル事業です。

1982年、卵黄レシチンの販売を本格的に開始し、その後、食品はもちろん、化粧品や医薬品まで幅広い分野で数々の商品を開発し販売しています。



北京丘比食品有限公司を設立

1993年、中国国内でのマヨネーズの製造・販売を行うため、北京丘比食品有限公司を設立。以降、マヨネーズに加え、ドレッシングやジャムの製造・販売を行い、サラダやパンなどの西洋料理の広がり合わせたメニュー提案を進め、「丘比(キューピー)」ブランドの認知向上に取り組んできました。

2010年には、マヨネーズ・ドレッシングでの「丘比」ブランドが日本の食品メーカーとして初めて中国政府により「馳名(ちめい)商標」※に認定されました。

※ 中国の国家工商行政管理総局商標局が認定する、中国での知名度が高く、公によく知られたブランドのこと



株式会社サラダクラブを設立

働く女性や単身世帯の増加、核家族化などの社会的背景を受けて、新鮮なサラダをいつでも手軽に、そして無駄なく食べられる「パッケージサラダ」へのニーズの高まりを予測し、1999年、株式会社サラダクラブを設立しました。

サラダクラブが製造・販売するパッケージサラダは、鮮度の良い野菜を衛生的な工場加工・袋詰めしています。

サラダクラブと、サラダ・おかず・麺類など幅広い商品を製造・販売するデリア食品グループを中心としたサラダ・惣菜事業は、これからも広がる中食市場をリードしていきます。



グループ研究開発・オフィス複合施設 「仙川キューポート」(東京都調布市) 開設

2013年、東京都調布市の旧仙川工場跡地に、グループの研究開発機能と本社機能をあわせ持つ仙川キューポートを開設しました。

これまで以上にグループ各部門の力を合わせることで、商品開発のスピードアップや、効率的な企業運営に取り組み、グループ全体の価値向上をめざしています。

食を通じて社会に貢献する 「キューピーみらいたまご財団」を設立

キューピーグループは「食を通じて社会に貢献する」という創始者中島董一郎の精神を受け継ぎ、事業活動だけでなく、食育活動の推進など社会貢献活動も積極的に進めています。

私たちが従来進めてきた独自の取り組みを進展させるだけでなく、食育や子どもの居場所づくりに取り組む団体を支援することで、私たちだけでは成し得ない社会貢献につなげていきたいという想いから、2017年、一般財団法人キューピーみらいたまご財団を設立しました。本財団は、2019年4月、公益財団法人に移行しました。

